2012年11月2日

SIPS MP-TF委員　各位

(株)データ･アプリケーション

藤野裕司

これまでの活動振り返りと今後の進め方

SIPS MP-TFが発足した2012年6月以降の活動を振り返り、今後の進め方について整理しました。

1. **今年度の当初計画**

***メッセージング基盤タスクフォースの活動***

　国境を越えたEDI情報のやり取りには、国際電子認証基盤を含め、国際相互運用性のある信頼できるメッセージ交換の仕組みが必要である。現状の日本およびアジア地域のEDIネットワーク基盤を調査し、実現性のある国際メッセージング基盤の検討を行う。

1. 国際メッセージング基盤調査

日本およびアジア地域のEDIネットワーク基盤の現状を調査し、解決すべき課題を明らかにする。

1. メッセージング基盤国際動向調査

欧米にて先行している事例を研究し、国連CEFACTで検討が開始されたメッセージング基盤の国際標準（勧告）策定プロジェクト「信頼できるメッセージ交換」に参加し、日本およびアジアへの適用方法を検討する。

1. ビジネス文書ヘッダーの標準化

広範囲の企業間情報共有においてはネットワーク上で複数の仲介者やデータベースを活用すること想定され、より汎用的なビジネス文書ヘッダー（BDH）が必要となっている。国連CEFACTで進められているBDHプロジェクトに参画し、日本およびアジアのビジネスとネットワーク基盤による要件を国際標準に反映するよう活動する。

1. グローバルビジネスのための標準メッセージング基盤

日本およびアジアで共有できる標準メッセージング基盤の枠組みを策定し、提案する。

1. **これまでのTFでの検討過程**
2. 討議の流れ

各委員より、SIPS MP-TFに期待すること、グローバルEDIに対する思い、自身もしくは所属する団体としてMP-TFでやりたいこと、について討議を行った。

1. 検討結果

・海外接続は必要だが、現実どのように進めたらよいか、具体的な進め方が見えない。

・少なくとも先進的な組織によるグローバルEDIの調査や取り組みは行われている。  
（CEDI活動、国内ベンダーの個別取り組み、GXSのグローバルサービス、等）

・単なる標準化を目指すのではなく、実際に業務としてユーザ・ベンダーともに利用価値のある基盤づくりを目指す。

・そのためには、現状調査・規格策定もさることながら、どのように公開し、運用・普及・展開を進めるかも指針が必要。  
（「作りましたのでどうぞ使ってください」ではダメ！）

1. **運営委員会で合意された今後の進め方**
2. 合意した検討範囲

＊通信・セキュリティ・APとのインターフェイス

　トランスレーションやWebEDIの扱いなども含む

＊メッセージや業務プロセスの検討は行わない

＊国際連携TF・国際／業際横断EDITFとのすり合わせを行う

＊必要となる機能を調査・検討しガイドラインの策定を行う

＊検討した仕様に基づき、国内ベンダー間、AFACTメンバー間での実証実験を行う

＊ガイドラインを公開した後も、運用・メンテナンスを継続する体制を確立する

＊将来のインフラ環境も視野に入れる

1. 当面の実施作業

・合意した検討範囲をもとに、活動計画（中期計画と2012年度年間計画）を再設定する

以上